

## 会 議 録

日 時	令和元年6月21日(金) 10:00~11:15	場 所	広域行政センター「学習ホール」
会 議 名	令和元年度 第1回由利本荘市地域公共交通活性化再生協議会		
出 席 者	委 員:(委員35名中)26名出席 ※代理出席含む 随行者:由利本荘警察署(1)、由利高原鉄道(株)(1)、羽後交通(株)(2) 事務局:地域振興課(3)、各総合支所振興課担当者(7) ※詳細は別紙のとおり		
案 件 及 び 会 議 要 旨			
1、開 会			
2、あいさつ 会長代理 由利本荘市 副市長 阿部 太津夫			
3、報 告 報告第1号 平成30年度 由利高原鉄道(株)実績報告並びに 平成30年度 由利本荘市コミュニティバス等運行実績報告について			
4、議 事 議案第1号 平成30年度 由利本荘市地域公共交通活性化再生協議会事業報告について 議案第2号 平成30年度 由利本荘市地域公共交通活性化再生協議会決算承認について 議案第3号 令和元年度 由利本荘市地域公共交通活性化再生協議会予算(案)について 議案第4号 生活交通確保維持改善計画(案)について 議案第5号 平成30年度 由利高原鉄道生活交通改善事業実績報告及び評価事業について 議案第6号 由利本荘市地域公共交通網形成計画(第二次)の策定について			
5、その他			
6、閉 会			
※ 裏面に質疑等を記載			

<議案に関する質疑応答要旨>

□ 「議案第6号」由利本荘市地域公共交通網形成計画（第二次）の策定について

○ 秋田大学 准教授 日野委員（本協議会 分科会 委員長）

- ・計画の内容については良いと思う。この第二次計画は、現状の計画における事業内容や実績を踏まえてブラッシュアップして、より良くしていこうという目標や実施事業を考えているものと思う。基本的な課題は現計画において整理され、第二次計画においては「さらにこの部分を良くしていかなければならない」や「こういう考え方にしていかなければならない」という部分が見えてきたので、それに対応するための計画であることを第1章「はじめに」などに入れて作成したほうが良いと思う。

⇒事務局（伊藤）

ご意見をいただいた二次計画に推移した経緯は「2、計画策定に至る経緯」に入れたいと考えていた。日野委員長からもご意見をいただきながら煮詰めていきたいので、よろしく願いたい。

- ・第5章に挙げられている事業は具体的な内容でよいと思うが、その中で「目標4 “鳥海山ろく線”の維持と利活用」については、バスの部分と切り分けられ、しかも、取り組む内容がアウトではないかと思ってしまう。今、提案できる具体的なアイデアはないのだが、何かもう少し具体的なものにできないものか。

⇒事務局（伊藤）

由利高原鉄道の維持や路線バスとの並走については、市としても非常に大きく難しい課題と捉えている。これまで具体的な検討を行ったことがなく、この計画期間（5年）を掛けて検討していくべきものと考えており、この目標や取り組みがスタートとなっていくものである。

したがって、記載する文言も具体性のないものとなっているが、事業を進めていく中で具体的な取り組みに繋げていければとも考えているのでご理解願いたい。

○ 秋田運輸支局 首席運輸企画専門官 長澤委員

- ・網形成計画については、協議会の皆様の同意のもと第二次計画を継続していくというものと考えているが、その協議会の同意については、前段で確認されているのか又は本日のこの場での合意形成と考えているのか確認したい。

⇒事務局（伊藤）

第二次計画として網形成計画を継続していくか継続しないかという意思決定は、本日のこの場でと考えている。計画を継続する、しないと判断するにしても、どのような形で継続していくのかという案がないと判断もできかねるのではということで、事務局より骨子案を提示した形でお諮りした。「網形成計画は継続しなくてよいのでは」というお考えも一つのご意見でありますので、そのような判断もあり得るということを含めましてご協議をいただきたい。

- ・私ども東北運輸局としては、是非、計画を継続していただきたいと考えている。

由利本荘市は様々な取り組みをしていただいているので、第二次計画においても引き続き、いろんな事業を進めていただきたいと考えている。

□ 次第5 その他

○ 羽後交通（株）営業担当次長 平元委員

- ・路線バスの経営状況について説明

- ・上記別紙資料のうち「本荘・伏見線」について、第二次計画での“並走区間の整理検討”を受け、次の点について言及があった。
  - ① 菜らんど（鳥海）～矢島駅の区間を廃止して、コミュニティバス等の代替交通として運行することで当路線への赤字補填は900万円ほど削減できる。
  - ② 矢島駅から本荘までの区間については、時間帯によって鉄道を走らせる時間とバスを走らせる時間を分けたりすることで効率的な運営をすることも可能なのではないか。
- ・生産性向上に向けた貨客混載について説明
- ・路線バスと入浴施設との連携によるバスパック企画のPR（前年比130%の増）
- ・スマホ定期のPR（日本初の取り組み 全451件 由利本荘管内でも増えている）
- ・由利本荘市内における特割定期券のPR
- ・「エクスプレス鳥海号」のPR
  
- JR 秋田支社 総務企画室 副課長 笹渡委員
  - ・羽後本荘駅の仮駅舎開設に伴う説明と協力依頼
  
- 由利高原鉄道 運輸課長 太田氏（随行）
  - ・七夕列車、納涼列車などの企画列車のPR
  
- 地域振興課より
  - ・定例の協議会としては2月を予定。分科会については10月と2月の開催予定。また、12月に書面協議する予定である。